

エコプロダクトにおけるコミュニケーションデザインの提案

提案型社会連携の取り組みから

PROPOSAL OF COMMUNICATION DESIGN IN ECO-PRODUCT

From the approach of the Social Collaboration of the proposal type

.....

荒木 優子	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 准教授
見寺 貞子	デザイン学部ファッションデザイン学科 教授
高橋 篤	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 非常勤講師
終 伸江	芸術工学研究所 研究員

.....

Yuko ARAKI	Department of Visual Design, School of Design, Associate Professor
Sadako MITERA	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Professor
Atsushi TAKAHASHI	Department of Visual Design, School of Design, Lecturer
Nobue HIIRAGI	Research Institute of Arts and Design, Reseacher

.....

要旨

本研究は大学が地域社会や企業に積極的に関与し、そこからデザインの課題を導出し、コミュニケーションデザインの観点から提案型の社会連携につなげることを目的としている。動機の背景には、大学の保有するさまざまなリソースを、実社会に還元し社会貢献をおこなう社会企業としての大学の役割を検証することにある。

具体的な研究対象としては、ペットボトル飲料の購入を抑えゴミ問題に対処が可能なエコプロダクトとして、近年使用者が増加傾向にある携帯型マイボトルの中で、ユーザーが自由にボトルの絵柄をカスタマイズできる機能が特徴の商品と、さまざまな野生動物の生態を飼育展示し、教育・研究・繁殖を目的とする施設として地域社会の中で特別かつ重要な位置づけにある動物園を取り上げた。そして、両者を結びつけるデザインの全体テーマを「生物多様性」に設定し研究を行った。以下にその報告を記す。

Summary

Present study aim that the university involves in community and business organization positively, finds the assignment of design from the involvements, and connects to the social corporation of proposition type from viewpoint of communication design. We verify the role of University as an organization holds CSR (corporate social responsibility) by restoring and resolving the various resources which the university possesses to actual society.

We focus on the two definite research objects. One is the portable type my-bottle, which user increases recently as the echo product instead of purchasing the pet bottle beverage that raise the rubbish problem. We especially pick up those my-bottles that user can freely customize the design. As another object, we also research the zoo, which is unique and important in community as the facility intended for education, research, and breeding by exhibit the mode of the various wild animals' life. The entire theme of the design which ties both was set to "Biodiversity".

Below, the research report is recorded.

1) はじめに

本研究は2008年度に「都市・神戸のブランド構築の視点から、携帯式マイボトルのプロモーションを考える」というテーマのもとで行ったゼミ課題が前身にある。さまざまな企画とデザインが提示され、そのうちの一つが王子動物園とのコラボレーション企画案であった。

前年度のゼミのフィードバックから、社会連携のための自発的研究として本研究をスタートした。これは受託とは異なる方法で自らデザインの対象やテーマを発掘するなかで、社会連携の方法・戦略を模索し企業や行政に働きかけてプロジェクトに繋げていくことを目的としている。コミュニケーションデザインをとおして地域社会における大学の役割を明らかにすると同時に、社会活動の中でデザインのあり方を学んでいくことに重点をおいて研究を進めていった。

研究対象として象印マホービン(株)と神戸市立王子動物園にご協力をいただいた。

1) -1 象印マホービンの携帯式マイボトル

生物多様性を含め環境問題への取り組みは、企業にとって重要な課題である。研究対象の携帯式マイボトルの商品は、エネルギーを使わず真空の技術を利用して保温保冷ができ、ゴミ問題にも対応するエコロジーな特性がある。また、ユーザーのアイデアで自由に絵柄シートを差し替えできる機能が売りの商品である。

1) -2 神戸市立王子動物園

神戸市立王子動物園は1951年開園で、2011年に60周年を迎える。年間入場者数135万人で東京・上野、北海道・旭山、名古屋・東山、大阪・天王寺の動物園とともに日本の代表的な動物園のひとつである。都市型動物園でありながら、原田の森の一角を占める桜の名所であり、背後には摩耶山系が連なる自然豊かな環境である。現在、生態展示を行うための獣舎のリニューアルなど、次のステージに向けた10年計画がスタートしている。

動物園の役割としては、1)レクリエーションとして

の憩いの場・癒しの場 2)命の大切さを教える教育の場 3)稀少動物、絶滅危惧種などを守る種の保存 4)調査研究の4項が挙げられる。

2) デザインテーマ

デザインテーマは「生物多様性」に設定した。

「生物多様性」は、地球温暖化防止の問題と同様、全人類が取り組むべき地球規模の課題である。折しも2010年は、国連の定めた「国際生物多様性年」で、COP10が名古屋で開催される。また研究対象である動物園にも本テーマは最も適していると思われた。

しかし、「生物多様性」は、一般には馴染みのない言葉である。それを補完する文言として「人とのつながり、地球とのつながり」のコミュニケーションフレーズを設定した。

3) 研究内容

携帯式マイボトルと動物園。この両項を繋げるデザインの企画アイデアを検討する。動物園は時代や年代を超えた普遍的な集客装置であり、地球環境や野生動物に対する関心の高まりのなか重要性が増している施設である。

そこで「動物達に会いに、マイボトルを持って動物園に出かける」というシーンを想定しデザインを展開した。また、プロジェクトのタイトルを「OZ CAFE」とした。

「OZ」は、O j i Z o oの頭文字から、「CAFE」はマイボトルから連想されるカフェ本来の意味と、プロジェクトの核となる情報誌(後述3)-4)をとおして地域のコミュニティづくりに積極的に関わって活動していくことを意図してネーミングした。



図1) : プロジェクト告知ポスター

3) -1 動物園オリジナルの携帯式マイボトル

『Zoomug (ズームグ)』

動物園オリジナル商品として携帯式マイボトル『Zoomug (ズームグ)』を提案。マイボトルの差し替えシートのデザインを学内で公募し、20点を制作した。



図2) : ズームグの差し替え絵柄シート

3) -2 携帯式マイボトルの専用バッグ

『Zoomug Bag (ズームグバッグ)』

「Zoomug を持って動物園に行こう！」をテーマに、Zoomug 専用バッグ=Zoomug Bag のデザインを、ファッションデザイン学科2年生が行った。可能な限り、Zoomug のシートデザインと連動するようなバッグのデザインを心掛けた。バッグの形態は、Zoomug がスッキリおさまる専用ケースのようなものや、荷物も入れられる収納力のある機能的なもの、また、ウエストベルトにアクセサリのようにつけるファッションブルなものなど、多様なデザインが集まった。その中から、8点の実物試作を行った。



図3) : ズームグバッグ

3) -3 葉

生物多様性への理解を促すツールとして、地球をイメージした円形の葉。表面のイメージを本研究全体のキービ

ジュアルと位置づけた。裏面は、環境省のデータから生物多様性と絶滅危惧種についての解説を行った。

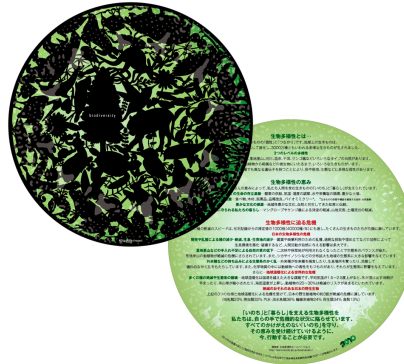


図4) : 葉『生物多様性』

3) -4 コミュニケーションペーパー (O.Z. cafe)

動物園をとおして、ユーザーとのコミュニケーションや情報発信をおこなうツールとしてデザインした。

0号のコンテンツは、生物多様性コラム(執筆者/水町衣里・京都大学)、環境コラム(執筆者/秋山秀一・兵庫県立大学)、動物園を楽しむポイントと動物園マップ、そしてズームグとバッグの紹介で構成した。



図5) : 動物園のフリーペーパー『O.Z. cafe』A2クロス折り

3) -5 ブックレット(作品集)

ゼミの学生が「生物多様性」のテーマに対して個々に取り組んだ成果を、『Graphic Design × Communication』と

して一冊のミニ冊子にまとめた。

3) -6 展示

研究成果を、象印マホービンの企業ミュージアムである『まほうびん記念館』で展示した。

展示期間：2010年3月29日～4月23日

展示場所：まほうびん記念館（大阪市北区）

HARMONY WITH PEOPLE, HARMONY WITH THE EARTH

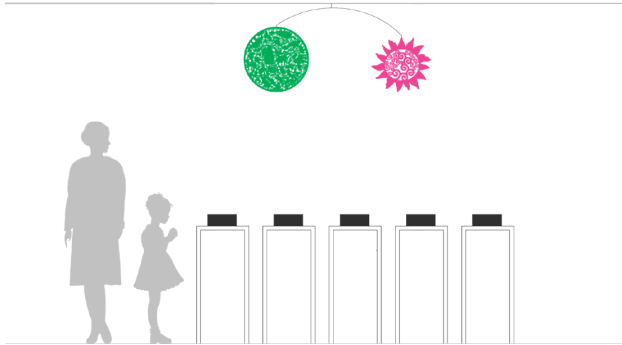


図6)：展示イメージ



図7)：展示風景

3) -7 配布イベント

コミュニケーションペーパー『0.Z.cafe』(3)-4参照を、一年で最も来場者が多い大型連休中のみどりの日(於：王子動物園・5月4日)と、毎年恒例の『神戸まつり』のプレイベントとして各区で開催される『第40回六甲ファミリーまつり』(於：王子競技場前広場・5月15日)にて、プロジェクトに参加した学生が市民や観光客に向けて手配りを行った(計5,000部配布)。配布をとおして王子動物園の紹介とともに、動物園をとおしての地域活性化とグローバルな課題である生物多様性と環境について、広く問いかけを行った。



図8)：配布イベント

4) まとめ

大学が地域社会や企業との連携の中で、教育と社会貢献を実践することで、ネットワークが広がり新たな活動に繋げることが可能である。

本研究を終えて感じたことは、市民にとって重要な施設である動物園だが、地域固有の文化資源としてはそれほど重要視されてこなかったのではないかということである。動物園の魅力を掘り下げ地域活性化に活用する試みとして、現在動物園を中心に行政や地元企業と連携し考察を続けている。

今後も本研究を足がかりにして、デザインを核に地域社会や経済の発展、交流の活発化、人材育成など、さまざまな意味において持続可能な提案と実践を模索していきたい。